

「東北地方の性的マイノリティ団体活動調査」について

◆調査の目的と対象

この調査の目的は、東北地方における性的マイノリティのコミュニティの展開を、東日本大震災との影響関係および他地域との共通点・相違点に注目しながら明らかにすることである。そのために市民団体のスタッフへのインタビューを行い、活動経験や活動に対する考えを聞いた。

◆インタビューの質問内容

おおむね以下の項目にそって質問した。

①プロフィール

- ・年齢（生まれた年）
- ・出身、転居歴、現在の住まい
- ・職業、家族構成

②現在かかわっている団体／活動

- ・どんな団体で、どんな活動にかかわっていますか。
- ・団体が発足した経緯、個別の活動が始まった経緯などを（ご存知の範囲で）教えてください。
- ・その団体／活動に参加した個人的な動機、経緯などを教えてください。

③活動と地域

- ・どのようなエリアで活動をしていますか（そのエリアを選んだ理由を教えてください）。
- ・他の団体や行政との連携、協働に取り組んでいますか（具体的に教えてください）。
- ・地域性を意識した活動や方針があったら教えてください。
- ・首都圏などいわゆる大都市圏と比較した際、この地域の特徴と感じられることがあれば教えて下さい。
- ・団体のミッション、活動の方針、個々の参加者の活動への取組みに、震災の影響はあると思いますか。
- ・団体に関わっておられる方で、他地域から引越してきた方、他地域へ引越された方はおられますか。

④これまでの活動に対する評価

- ・どんな成果をあげたと考えていますか。
- ・活動の意義をどのような点に見出していますか。
- ・これまでの活動の中で、どんな課題に直面しましたか。

⑤今後の活動や課題

- ・これから、どんなことに取り組んでいきたいと考えていますか。
- ・他の地方の運動とくらべて、東北地方特有の課題があると思いますか。

◆依頼のプロセス

東北を拠点に活動している方に、杉浦郁子と前川直哉がメールで依頼した。そのさい「インタビューへのご協力をお願い（依頼状）」と「質問項目」の2つの書面も送り、インタビュー協力の可否を判断する材料としてもらった。

「依頼状」には、「調査名」「調査者」「インタビューの目的」「協力をお願いしたい方」「インタビューの方法・内容」「インタビューのまとめ方に関する事」「インタビューの公表・活用の仕方に関する事」「御礼」「責任者の連絡先」を記載し、各項目について詳しく説明した。調査に関する質問や懸念があれば、メールでお答えした。

インタビュー協力を承諾して頂けた場合は、引き続きメールで日程の調整を行った。

◆インタビューの方法

インタビューは、協力者の活動エリアにある公共施設、喫茶店の個室、ご自宅など、プライバシーを守れるところで行った。

インタビューを始める前に、協力者に「依頼状」の内容を口頭で説明した。不明な点に関する質問に答えたあと、インタビューの承諾書に協力者と調査者が署名した。承諾書は2部作成し、1部を協力者が、もう1部を調査者が保管している。

インタビューのやりとりは、複数のICレコーダやタブレット端末で録音した。インタビューにかかった時間は、おおむね2時間から3時間だったが、協力者の活動期間が長い場合は、4時間以上かかることもあった。

なお、2018年のインタビューの聞き手は、主に杉浦郁子とNatasha Foxだった。2019年の聞き手は前川直哉と杉浦だったが、「ろう LGBT 東北」のインタビューのみ内田有美と杉浦だった。

◆インタビューの編集方法

インタビューのやりとりは、業者を利用して書き起こし、それにもとづいて調査者が読みやすい形に編集した。各章の冒頭に記した「聞き手」の筆頭者が、編集を担当した。

時間の流れにそって出来事を配列したり、項目ごとにまとめたりした。また、調査者の発話を省略し、協力者が一人称となる文章にしたが、できるだけ協力者の使った言葉で記述するようにした。

編集した原稿を協力者に送り、公表には不適切だと思われる表現や内容、事実誤認を中心に修正してもらった。修正を反映させて、レイアウト原稿（版下）を作成し、協力者に再度の校閲をお願いした。

なお、協力者の名前は、「仮名」「活動名」「戸籍名」のいずれかである。